



森友事件も加計事件も其な介入を行って、こうした不正を財務省や籠池にさせ、安倍政権が直接に関与してきた事実が次々と明らかになり、今や安倍は国会で「嘘つき」という激しい言葉で慢罵されるまでに追い込まれている。

森友事件では、理財局幹部が、安倍政権に都合のいいように公文書を広汎に書き換えさせ、あるいは森友に、ゴミの撤去についてうその説明をして、8億円の不当な土地売却値引きで、口裏合わせを要求していたことが明らかにされた。事実も判明した。麻生が口を開く度に繰り返していた「売買価格は適正に決められた」という発言が真つ赤な虚偽発言であることも明らかにになった。

森友では首相夫人が様々丁度3年前、今治市の担当者や学園幹部が首相官邸に、圧力をかけ、官僚にや

主張

森友、加計を巡る巨悪を許すな  
安倍と国家主義派全体の権力犯罪だ

だから、ことは重大である。これらの事実が語るのは、森友、加計学園事件が単に官僚が暴走したのでも、安倍の心中を忖度して勝手なことをしたのでなく、安倍政権が直接に「政治主導」し、圧力をかけ、官僚にや

「働き方改革」法と労働者の闘い

非人間的な搾取労働、差別労働を即時廃絶せよ

安倍政権は4月6日、「働き方改革」を一括法案として閣議決定し、国会に提出、成立を狙っている。私たちはすでに昨年の総選挙で、闘いの出発点として、以下のような主張を掲げて総選挙に臨み、闘い抜いた。それを紹介しつつ、「働き方改革」法案の欺瞞とペテンを明らかにし、労働者党の闘いや性格について語ることにする。

昨年総選挙における私たちの闘い

私たちは昨年総選挙において『選挙公報』（原則として、選挙区の全家庭に配布されるべき公的な文書）の冒頭で、私たち労働者党の、労働者に対する根底的政策として、二つの点について語った。

一つは、長時間労働、ブラック企業などに象徴される、搾取労働の即時廃止の要求である。  
二つは、二千万人にも急増してきた非正規労働者や、

を訪れ、当時首相秘書官だった柳瀬唯夫と面会し、柳瀬が安倍政権の犯罪以外ではないことを暴露したのである。もはや安倍や安倍政権に、どんな言い逃れの余地もすべもない。

加計学園については、すでに文科省の文書で、安倍の側近中の側近の狹生田らが「（籠池の）意向」、

ものだが、安倍政権のもとでは、政府と国家ぐるみの巨悪は隠され、まかり通るが、極小悪は厳しく追及され、罰せられるのである。そもそも籠池の巨悪は、補助金不正といったところにあるのではなく、学校教育

安倍の公約は裏切られた

（前掲『我々はいかに闘ったか』18頁以下）。  
しかし「働き方改革」の一括法案を見るなら、安倍政権の裏切りは明らかで、その内容は中途半端で、ごまかしや偽善ではない。

まず、野党や労働組合が支持する残業規制である。これまで事実上、法的規制の無かった残業に月60時間（年間720時間）を超えるなどという法的な規制が行われ、違反者（企業やブルジョアたち）が罰せられることになったのは確か

育で、憲法や教育基本法違反の、露骨な国家主義教育、「偏向教育」を行い、教育勅語を子供たちに暗唱させるやら、ヘイトスピーチやら、公教育を否定する合言葉で叫ばれるやら、安倍法などの安倍政治の賛美を合唱させるやら、

関係も別なのだから、別々に提出するように要求する。高プロとは、要するに機能資本家（所有資本家とタプする場合もあるが、それは区別され、資本の機能的な契機を主として担う資本家の一部、つまり経営者）か、その階級に属する人々であり、最低年間1千万や2千万くらいは楽々稼ぐ高給取りの階級であって、労働者党は、非正規や女性など広汎な低賃金で搾取される労働者、そしてまた、せいぜい年間給与が数百万程度の「普通の」労働者のために闘うのである。

高プロとは、アナリストや「コンサルタント」や「ファイナンス」等々高給の「専門職」で、企業内では40代ともなれば、みな支配層の一部に入り、取り込まれるようなエリートたちだが、共産党や労働組合は、なぜ、何のために、高プロ連中のために闘うのか、闘わなくてはならないのか。共産党の階級的な本性、「中産階級的な」、日和見主義的本性を暴露していないのか。

他方、残業規制法は、どんなに限界あるものにして、労働者にとって一つの改良である。これまでの残業規制として、一括法案として提出することにある。高プロ法を成立させるためというなら、そんな都合主義的なやり方こそ混沌の元である。

労働者党は、少なくとも労働者保護法と、もっぱら経営者側の「高度プロフェッショナル」（高プロ）を対象とした法案は、性格も内容も、階級、階層による利害

関係も別なのだから、別々に提出するように要求する。高プロとは、要するに機能資本家（所有資本家とタプする場合もあるが、それは区別され、資本の機能的な契機を主として担う資本家の一部、つまり経営者）か、その階級に属する人々であり、最低年間1千万や2千万くらいは楽々稼ぐ高給取りの階級であって、労働者党は、非正規や女性など広汎な低賃金で搾取される労働者、そしてまた、せいぜい年間給与が数百万程度の「普通の」労働者のために闘うのである。

まず一括法提出を止めよ

そもそも問題は多くの法案をいくつかに分けて、一括法案として提出することにある。高プロ法を成立させるためというなら、そんな都合主義的なやり方こそ混沌の元である。

いかに闘うか

しかし共産党は高プロ法

「日本防衛を目的とした『防衛型空母』で、専守防衛から逸脱しない」とうそをいっている。『攻撃型空母』はダメだとしても『防衛型空母』なら文句があるかと、高性能で、より機能型の空母に変身させて

防衛的から攻撃的「戦力」へ

護衛艦「いずも」の空母化とF35B配備

ばら防衛のための空母だといっても、そうした能力は、防衛のためというより空母の一般的な機能強化であって、帝国主義戦争や侵略戦争でも決定的な意義を持ち

参院選を全国で闘います

労働者党に大きなご支援を！

私たちは「労働の解放をめざす労働者党」は来年の19参院選に10名の候補者を擁立し、確認団体――公職選挙法上の政党――として、比例区でも、選挙区でも候補者を立てることを決定しています。

私たちは、労働者にとって有効な政治闘争を推し進めるため、議会選挙や国会活動への参加を重視し、こ

労働者党の出版物

★単行本『我々はいかに闘ったか』（送料とも1500円）他多数  
★政治機関紙『海つばめ』（隔週刊、年間2千円）  
★お申し込み 全国社研社まで（住所等は、表面題字横）